

平成26年度新規漁業就労者調査

水産海洋技術センター 牧野清人

平成26年4月から27年3月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規就労者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、組合脱退者についても年代、事由について調査を行った。

平成26年度における新規就労者は158名で、全て男性であった。年代をみると、10代の参入者は6名、20代が24名、30代が48名、40代が35名、50代が29名、60代以上が16名と、20代～30代の若い漁業者だけでなく、40～50代の加入割合も多い結果となった（図1）。

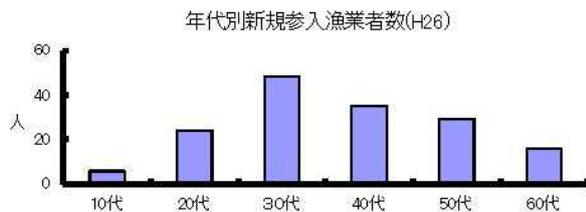


図1. 年代別参入漁業者数

新規就労者の中で、正組合員は14名、准組合員は79名、その他が65名であった。その他は組合事務局によると、組合員の資格は有しないが、加入申請を行っており、員外組合員として認可され、今後水揚げの状況によって組合員資格審査を受け、正組合員若しくは准組合員になる予定とのことであった（図2）。



図2. 参入者における組合員資格別割合

新規就労者の漁業種類は複数の業態を行う漁業者が29名であった。各漁業種類毎の従事者数をみると曳き縄一本釣りを開始している漁業者が66名と最も多く、次いで素潜り漁が45名とほぼ同じで、モズク養殖が18名、採貝、海藻が14名の順で多い結果となった。これまでの調査を見る限り、曳き縄一本釣りおよび素潜り漁は長年にわたり、各業態の中で就業種類としての上位を維持している。曳き縄一本釣りについてはベテランの漁業者の乗り子として乗船するケースが多いこと、素潜り漁は漁業を開始するのに船舶や機器類、漁具等の出費が少なく、比較的簡単に行えることが理由と考えられる（図3）。

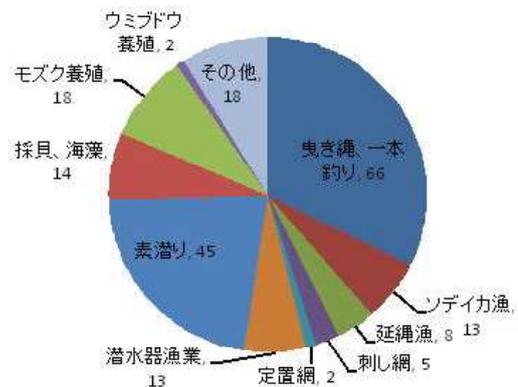


図3. 新規参入者の業態別割合

各漁協ごとの新規就労者数をみると、八重山漁協が31名と最も多く、それ以外の漁協ではすべて10名以下という結果であった。八重山漁協は石垣島に所在するが、UターンやIターンなど、県外（島外）からの加入者も多く、主に潜水漁業および曳き縄、一本釣り等のマグロ漁業への就業が多い（図4）ため、例年多くが漁業者として加入している。

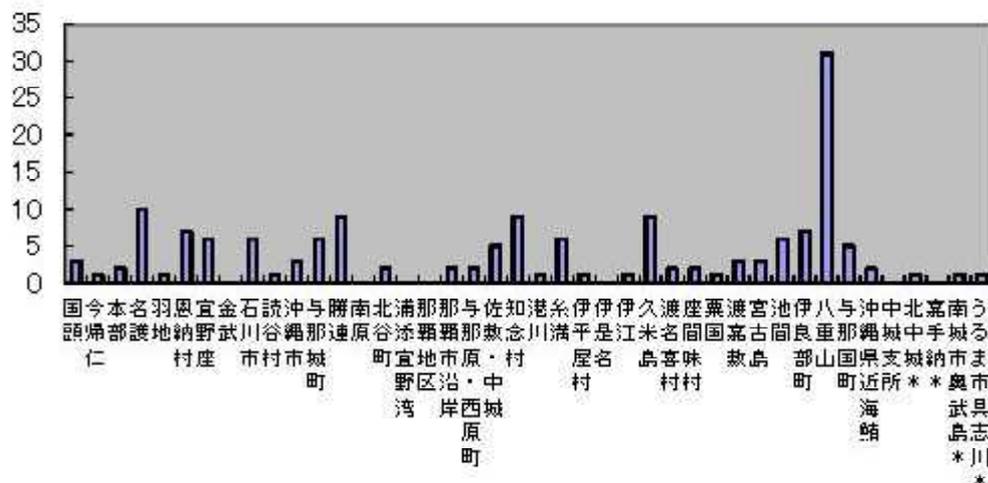


図4. 漁協別新規参加者数

平成26年度における漁協の脱退者は148名で、新規就労者が脱退者を10名上回る結果となった。脱退者の内訳は任意脱退者が32名、組合員資格の喪失が32名、死亡による脱退者が53名、病気、高齢による脱退者が37名、自ら漁業を断念したものが32名であった（図5）。これを年代別で見ると、20代～40代まではそれぞれ6名に満たず、合計でも16名であったが、50代から80代までが20名以上となり、50代以上が全体の89%を占めた。また、本調査結果から、一部の漁業者は90代まで漁業を継続していることもわかる（図6）。また、20～40代の若い年代が100名以上加入している（図1）ことから、多くの若い漁業者の加入が今後の漁業活性化に繋がることを期待する。

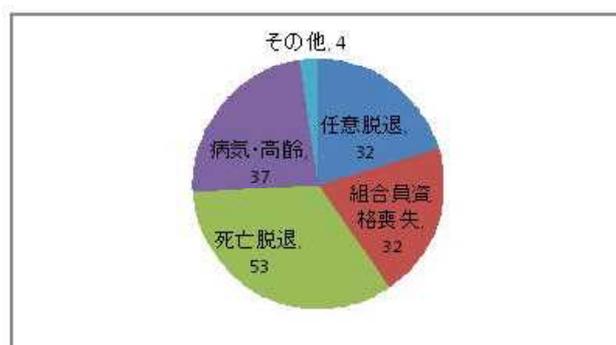


図5. 脱退者数 (事由別)

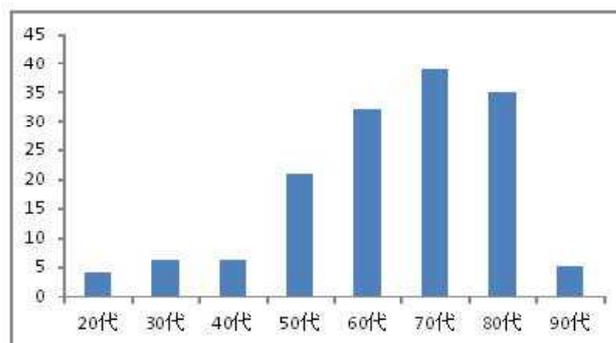


図6. 脱退者数 (年代別)